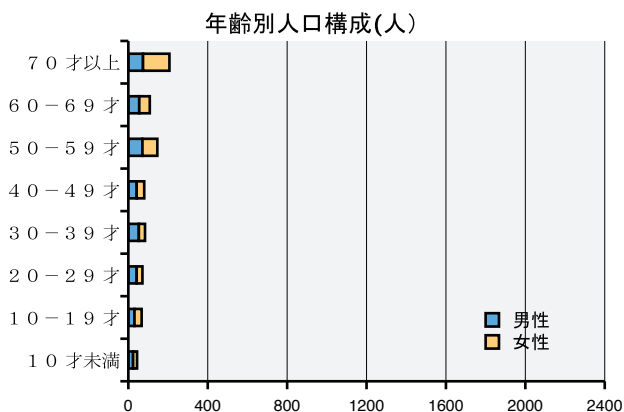


## 位置図



## 1 居住者の現況

人口(人)	807
世帯数(世帯)	230
65歳以上人口(人)	254
65歳以上世帯(世帯)	35
5歳未満人口(人)	23



## 2 建物に関する指標

## ■ 構造別建物棟数(棟)

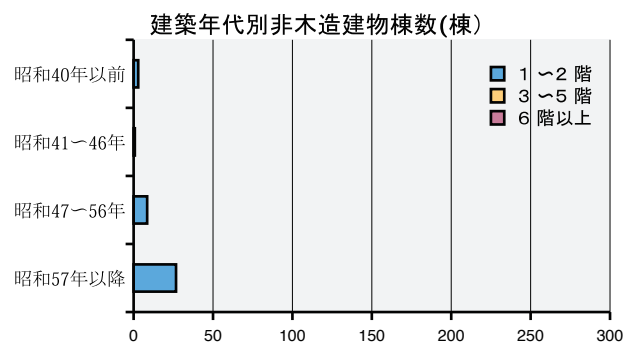
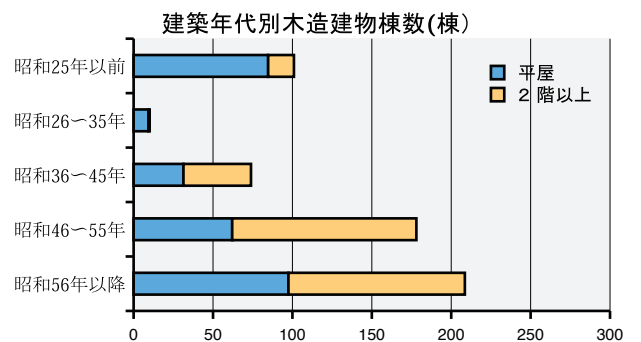
木造建物	572
非木造建物	39
合計	611

## ■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	98	111
昭和46年～昭和55年	62	116
昭和36年～昭和45年	31	43
昭和26年～昭和35年	9	1
昭和25年以前	85	16

## ■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	27	0	0
昭和47年～昭和56年	9	0	0
昭和41年～昭和46年	1	0	0
昭和40年以前	3	0	0



## 自然的・社会的基本指標

秋田市西部に位置し、岩見川の中流域の低地部を中心とする区域である。山地部との境界部に急傾斜地等危険区域が分布する。人口は800人と少なく、高年齢者層ほど比率が高い傾向にあり、65歳以上が32%を占める。建築物の多くは昭和46年以降に建設された木造の建築物であり、非木造建築物は少ない。昭和56年以降の建築物は全体の39%である。

### 3 急傾斜地等の現況

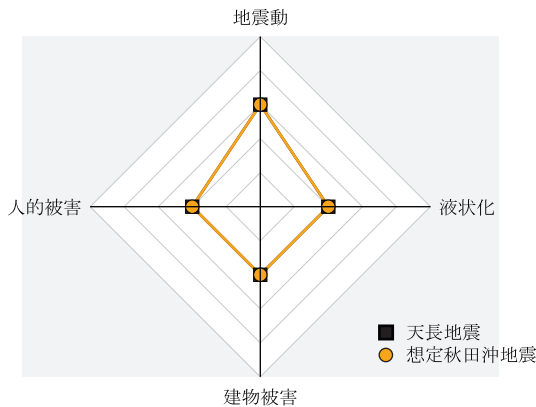
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(4)	山根、曾場、曾場台、山根
なだれ危険箇所(3)	(大沢)、(高岡) 他
地すべり危険箇所(0)	該当箇所なし
土石流危険渓流(7)	山根沢、大沢、仏沢 他

### 4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

#### ■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	5 強	5 強
液状化危険度	ランク 2	ランク 2
木造建物大破数(棟)	11	1
非木造建物大破数(棟)	0	0
死者数(人)	1	0

被害想定結果レーダーチャート



#### レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

#### 地震時危険要素

天長地震を想定した場合、平均震度は5 強となる。液状化する可能性ランクは2 であり、液状化が発生する可能性は低い。建物の大破被害は10棟程度で、死者が発生する可能性がある。

想定秋田沖地震では、平均震度は5 強となり、液状化が発生する可能性は低い。建物大破被害が発生する可能性がある。死者が発生する可能性は低いものと想定される。

#### 津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

### 5 防火・防災施設に関する指標

#### ■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	39
防火水槽(箇所)	11
消防車台数(台)	7
消防ポンプ数(台)	2
消防団員数(人)	114

#### ■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
赤平小学校	屋内	197
赤平小学校グラウンド	屋外	6,100

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	河辺消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	0
最寄の救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	5

#### ■ 学区内の主要な公共施設

施設名	住所
-	-

#### 防災上の課題と対策

赤平小学校区は、岩見川中流域の低平地とその左岸の段丘状の高台に散在する集落からなる。土砂災害並びになだれ危険箇所に隣接もしくは含まれる集落は岩見川右岸に多い。建物の多くは旧耐震建築物である。人口構成は、若年層ほど構成比率が低下しており、65歳以上の高齢者が全体の31%を占める。ただし、高齢者のみの世帯数は15%にとどまっている。避難所(屋内)は、地域の中央部に配置されており、その収容可能人員数は、全人口の24%である。ただし、岩見川右岸区域には避難場所(屋外) および避難所(屋内) がないことから、集落単位で一時的な避難の方法および連絡体制の確立強化について検討する必要がある。医療施設がないことから、緊急搬送手段の確保が重要である。人口流動性が低い地域であり地域内の協同・相互補助の意識は高いと見られる。防災関連の知識および情報の周知徹底を図るとともに、防災訓練等による地域防災活動の活性化が有効であると考えられる。